

平成28年度

長岡京市立中学校米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州
アーリントン訪問報告書

長岡京市立中学校米国短期交換留学協議会

はじめに

学校教育課指導主事

岩崎 裕美子

平成 28 年 4 月 23 日に出発して 5 月 4 日までの 12 日間、中学生 16 名、高校生 10 名、引率者 5 名の計 31 名で、アーリントンを訪問しました。

お天気にも恵まれ、大きなけがや病気もなく、全行程を無事に終了することができました。本事業をご支援いただきました関係者の皆様、そして温かく見守っていただきました保護者の皆様に心よりお礼申し上げます。

私自身が一番印象的だったのは、帰ってきた直後の市長報告会で、生徒たちが生き生きと報告していた姿です。

生徒たちは、英語 100 フレーズ暗唱や日記など、メンバーとともに約半年間もの英語学習を積み重ね、自信と期待を大きく膨らませ出発しました。そして、初めて触れる景色、食べ物、空気、言葉、習慣、人々の反応などなど・・・たくさんの刺激に、私たちの心は高揚し、これまでの常識や価値観を突き破るような衝撃や感動がありました。と同時に、日本語が全く通じない環境の中、予想を超える不安感やストレス、とまどい、できない自分とも出くわしたのです。

そんな激動の 12 日間を、自分の力と、仲間同士の支え合いで、自分らしく乗り越えた 26 名は、大きな達成感と共に、これまで気付かなかった新たな自分や目指したい自分を発見したのではないのでしょうか。報告会で、あふれるように思いを伝えた生徒たちは、それぞれがすばらしい自分色に輝いていました。

ここに綴られている生徒たちの感想文にも、その感動・感謝・成長・強い決意などがたくさん詰まっています。この思いを大切に、さらなる自分探しの旅に挑戦し続け、大きく羽ばたいてくれることを願っています。

今回の訪問を通して、アーリントンの方々には改めて感謝を申し上げます。

小・中・高等学校はもとより、ジャパンフェスティバルへの参加、タウンミーティングでの紹介など、まちをあげて歓迎していただきました。そして何より、ホストファミリーの子どもたちに対する温かい眼差しと、懇切丁寧な対応には感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、多くの方々との出会いや経験をきっかけに、訪問団員が世界の中で活躍することを期待するとともに、未来を担う子どもたちの夢や糧につながる本事業が、益々発展していきますことを祈念し、ご報告とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

目 次

はじめに

I 訪問の部

1	訪問団員名簿	1
2	訪問日程	2
3	生徒感想文	3
4	アーリントンだより	18

II 来訪の部

1	訪日団員名簿	37
2	訪日日程	38
3	訪日団引率者挨拶	39
4	訪日団生徒挨拶	41
5	アーリントン訪日団友好紀行	42

I 訪問の部

1 訪問団員名簿

中学生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	岩崎 裕美子	長岡京市教育委員会 指導主事
引率	ボイル・コナー	英語指導助手
引率	小川 紀子	国際理解教育交流指導員
2 年	林田 聖	長岡中学校
3 年	伊豆 健太郎	長岡中学校
3 年	久富 伽耶子	長岡中学校
3 年	橘 みなみ	長岡中学校
2 年	中村 航太郎	長岡第二中学校
3 年	山本 聖留	長岡第二中学校
2 年	村山 未来	長岡第三中学校
3 年	杉野 奈桜	長岡第三中学校
3 年	吉谷 紫音	長岡第三中学校
3 年	榊原 大和	長岡第三中学校
3 年	東 莉緒	長岡第三中学校
2 年	藤井 優	長岡第四中学校
2 年	吉田 瑠香	長岡第四中学校
3 年	橋本 麗那	長岡第四中学校
3 年	小林 慶人	長岡第四中学校
3 年	竹中 楓美	長岡第四中学校

高校生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	西山 尚幸	西乙訓高校 英語科教諭
引率	伊藤 里実	西乙訓高校 英語科教諭
2 年	上坂 春	西乙訓高校
2 年	鈴木 薫	西乙訓高校
2 年	篠邊 大地	西乙訓高校
2 年	東 千夏	西乙訓高校
2 年	木曾田 尚也	西乙訓高校
2 年	佐々木 光	西乙訓高校
2 年	藤田 光希	西乙訓高校
2 年	村田 歩美	西乙訓高校
2 年	織田 慎二	西乙訓高校
2 年	高木 祐也	西乙訓高校

2 訪問日程

月 日(曜日)	時刻	行程
4 月 23 日(土)	9:00 10:30 13:10 14:45 16:35 9:15 11:00 19:30	長岡京市 発 関西空港 着 関西空港 発 成田空港 着 成田空港 発 シアトル空港 着 シアトル空港 発 ボストン空港到着後、ホストファミリーとホスト宅へ
4 月 24 日(日)	10:30	ボストンコモン(公園)でジャパンフェスティバルに参加
4 月 25 日(月)	8:30 12:00 17:00 20:00	ピアース小学校で交流プログラムに参加 ハーバード大学見学 イーグルスデリにて夕食 タウンミーティング見学
4 月 26 日(火)	9:00 10:00 12:00	レキシントンでウィルソンファーム見学 フェンウェイパーク見学ツアーに参加 ファニエル・ホール、フリーダムトレイル見学
4 月 27 日(水)	8:30 16:45 23:00 23:45	アーリントン高校で交流プログラムに参加 ボストンレッドソックスの試合観戦 フェンウェイパーク 出発 アーリントン高校 着
4 月 28 日(木)	9:30 10:30 16:30	アーリントン高校出発 ホエールウォッチング ファニエル・ホール見学 ファニエル・ホール出発 アーリントン高校へ
4 月 29 日(金)		オトソン中学校で交流プログラム、ダンスパーティに参加
4 月 30 日(土)	9:00 17:00	キャノビーレイクパーク訪問(自由参加) フェアウェルパーティ
5 月 1 日(日)		ホストファミリーデー
5 月 2 日(月)	10:00 19:15	ロビンス図書館、博物館見学 レキシントン見学ツアーに参加 ヒルトンボストンローガン空港ホテルに移動
5 月 3 日(火)～ 5 月 4 日(水)	4:00 6:10 8:28 11:36 14:00 16:00 17:40 18:15 19:45	ヒルトンボストンローガン空港ホテル 発 ボストン空港 発 ミネアポリス空港 着 ミネアポリス空港 発 成田空港 着 成田空港 発 関西空港 着 関西空港 発 長岡京市 到着

3 生徒感想文

長岡中学校 二年 林田 聖

アーリントンに向かうバスの中、私はとてもワクワクしていました。でも、英語できちんとコミュニケーションが取れるかどうか心配もありました。アーリントンに着き、私のホストファミリーに会ってみると、不安で固まっている私に喋りかけてくれたり、ボードゲームで遊ぼうと誘ってくれたり、優しいホストファミリーでした。すぐにホストファミリーとも仲良くなり、何日か経つと英語も聞き取れるようになってきました。もっと仲良くなりたくて、話したい英語が分からなくても調べて自分から喋りかけるようにすると、ホストファミリーとの距離がぐんと縮まって行きました。

アメリカに来て驚いた事は、日本とは環境も食べ物も全然違うということです。とても大きな公園がたくさんあり、公園や木のそばにはいつもリスやウサギがいて、自然に囲まれていました。もう一つは、ホストファミリーが用意してくれたランチに、いつも人参が生で入っていた事(小指くらいのものが 20 本も!)とリンゴやナシは切らずにそのままかぶりつくということです。

私がアメリカに来て学んだことは、このように住んでいる環境や食べる物が違っても、積極的に行動することが大切だということや、言葉が通じなくてもコミュニケーションを取ることは出来るし、こちらが一生懸命伝えようとすれば相手は受け入れてくれるということです。

また、とても古い家や建物を大事に手入れしながらずっと長く使っていて、歴史のある建物が街の至る所にあって、新しいビルや建物と調和していることもアメリカの文化なのだなあと思いました。

一緒にアーリントンに行った、毎日一緒に過ごすメンバーともとても仲良くなりました。中学生 16 人、高校生 10 人の合計 26 人は、高校生も中学生も学年男女関係なく遊んだり歌ったりしてとても仲が良く、一緒に過ごす時間がとても楽しかったです。

学校に行ったり、ツアーに参加したり、買い物をしたりすると、足も体もクタクタに疲れてそのまま寝てしまう日もありました。しかし、メンバーという時間もホストファミリーという時間もとても幸せで、一日一日を存分に楽しみました。ただ、お肉を食べない家庭だったので、日本にいる時よりも何十倍もお肉を食べたかったです。

ツアーや観光の中で私が一番心に残ったのは、レッドソックスのゲームです。今まで、野球観戦なんて興味さえわかなかったのに、ゲームを初めて見たらすごく面白くてどんどん引き込まれ、すぐに夢中になったので自分でもびっくりしています。

また、ダンスパーティーでは色んな人と写真を撮ったり自分の特技を披露したりしました。とても盛り上がり、楽しく過ごせて本当に有意義な時間でした。

ホストファミリーデーには、りおちゃんとみなみちゃんとふみちゃんと一緒にカムボールファームという所に行きました。一番小さいサイズのアイスクリームを頼んだのに、そうとは思えないくらい大きくてお腹いっぱいになりました。ゴルフやエアボートもあってとっても楽しかったです。

二日目は大きなショッピングセンターに行ってショッピングを楽しみました。売っているもの全てが大きくて驚きました。私が「これ可愛いなあ。」とカラフルなネオンカラーの靴下の束を見ていると、ホストマザーが

買ってくれました。また、寒い日に貸してくれたホストシスターの大好きなペンギンの手袋を、あなたにあげるよ、と言ってホストシスターが私にくれました。どちらもすごく嬉しくて、大切に使おうと思いました。

フェアウェルパーティーでは浴衣を着ました。ホストファミリーがとても綺麗だと言ってくれて、家の前で双子のホストシスターと一緒に写真を撮りました。パーティーのご飯も美味しくて満足で、最後の鳴子が上手くいったのは本当に嬉しかったです。

別れることを考えると悲しくて寂しい気持ちでいっぱいになり、みんなで泣きました。その次の日もほとんど全員が泣いていましたが、ホストファミリーは笑顔で見送ってくれました。絶対にまた会うことを約束しました。

毎日をアメリカで過ごしてアメリカの文化や環境の日本との違い、それにホストファミリーやメンバーのこともたくさん知ることが出来、たくさんの思い出も出来ました。どれも本当に大切なかけがえのない思い出で、忘れられません。ホストファミリーもメンバーも今年のアーリントン訪問団として出会うことが出来、一緒に過ごせて本当に良かったです。感謝の気持ちでいっぱいです。このような経験をさせてくれた両親や先生方にも心から感謝しています。

いつかまた、アメリカに行ってホストファミリーのみんなに会いたいと思っています。だから、その為にこれから今まで以上に必死で頑張るつもりです。

長岡中学校 三年 伊豆 健太郎

12 日間を終えた今、思い起こすと、楽しい思い出がたくさんでできます。アーリントン行きが決まってから約 6 か月間、学習会、鳴子練習会を経ての出発前、僕は期待と不安で、落ち着けと常に自分に言い聞かせていました。先生、両親に見送られ交換プログラムがはじまりました。空港までのバス内では、緊張のあまり、口数が減っていました。関空から、成田を経由し、アメリカ本土シアトルに上陸。いつも見る景色と全く違います。周りには外国人ばかりです。ついに来たと実感。シアトルで乗り継ぎ、長いフライトを終え、待ちに待ったボストン到着。空港では、ホストファミリーが出迎えてくれました。ボストン到着後、すぐに訪問団メンバーと離れホストファミリー宅へ行きました。家に着くとファミリーは親切に分かりやすい英語で話してくれましたが、緊張でとてもじゃないけどリラックスできません。ここで過ごす数日に不安があったのも事実です。

姉妹都市であるアーリントンにある小、中、高校を訪問し鳴子や歌を披露しました。中学校では、シャドーイングに挑戦。全て英語で進む授業はちんぷんかんぷんでした。学校内は迷路のようで、昼食を食堂で食べたり、校内でスナックを食べたり、先生ごとの教室があり、そこへ毎時間生徒が学びに行くスタイルで、たくさんの違いを感じました。

楽しみにしていた野球観戦では、レッドソックスが先制をし大興奮。結果は、9-4 で勝利に、また興奮の一日になりました。

不安や緊張していたホームステイでしたが、家族と会話や日常を共有し、少しずつ打ち解けていったと思います。他にも多くのプログラムを通して、自分の英語力をもっと高め広い世界を知りたいと思いました。

この 12 日間は、一生忘れられない経験となりました。

長岡中学校 三年 久富 伽耶子

私が、今回アーリントンに行って一番心に残っているのは、現地の人の明るさやフレンドリーなところです。最初はホストファミリーとしゃべれるか不安でしたが、明るい笑顔で迎えてくれました。お客さんではなく、家族のように接してくれたことが嬉しくて、すぐにリラックスすることが出来ました。中学校での授業体験のときには、シャドーイングの友達になった生徒が「名前は？よろしくね。」と声をかけてくれました。小学校でもけん玉をやっているとき、積極的にやり方を聞いてくれて、話すことが楽しかったです。

私は、日本では引っ込み思案なところがあります。でも、アメリカでは誰にでも何にでも積極的でした。最初は驚きましたが、最後の方はその明るさが心地良かったです。

私にとってアーリントンでその明るさに触れられたのは大きかったです。帰ってきてからもアメリカの雰囲気が恋しく感じています。それを忘れないように、私も初めての人にでもフレンドリーになれるように、笑顔でいたいと思います。

長岡中学校 三年 橘 みなみ

私は、このプロジェクトを通じて多くのことを学ぶことができました。日本にはないアメリカの良さ、そして、改めて日本の良さを知ることができました。

私は、よく人見知りをします。初対面の人に声をかけたり、コミュニケーションをとったりすることがあまり得意ではありません。だから、アーリントンに行って、ホストファミリーとうまくコミュニケーションをとることができるかと不安でいっぱいでした。でも、私がアーリントンに行ったとき、英語が話せない私にホストファミリーは優しく声をかけてくれました。オトソン中学校に行ったときも多くの生徒が私に話しかけてくれて、たくさんの人と英語で話すことができてうれしかったです。しかし、自分から積極的に英語で話しかけることができませんでした。これが私の今の課題であると考えます。7月にアーリントンの人が日本に来てくれるときは、私と同じようにたくさんの不安を抱えていると思います。私は、この時に自分から積極的に話しかけられるように頑張りたいです。

今回、私はとても貴重な経験をさせていただきました。これまで支えてくださった先生方や家族、多くの人への感謝をいつまでも忘れないようにしたいです。

僕のこのアーリントン訪問の中での目標は、文法がわからなくても単語だけでも、ジェスチャーでも自分の意見を伝えることでした。最初はやっぱり緊張してしまって、うまく話すことができませんでした。ホストファミリーのみんなが優しく聞き返したりしてくれて、だんだんと話すことができるようになってきました。アメリカの人々はみんなフレンドリーで、ダンスパーティーとかでも全然知らない子からいきなり話しかけられたりしました。僕もそういうところは見習ってみたいです。

しかしその中で、やっぱり単語力が全然足りないということを痛感させられました。正直、僕がこの訪問中一番発した言葉は「yeah!」や「yes!」、「no,thank you」だと思います。ホストファミリーは、僕たちが理解できるように優しい文法を使って話してくれます。しかし、それでもわからない単語が出てきます。文法的には簡単なので、その単語さえ理解できれば完全に聞き取ることができました。だから、僕はこれから文法だけでなく単語もしっかり覚えられるようにしていきたいです。

お世話になったホストファミリー、英語を教えてくれた先生方、この訪問を楽しませてくれた 25 人の仲間、そして何よりすべてを支えてくれた家族に感謝したいです。

僕は、海外に行くのは初めてで、空港ではとても緊張していました。でも、アメリカに着くとなぜか緊張感がなくなり、早くホストファミリーに会えないかなという気持ちが大きくなっていました。

今回、アーリントンを訪問して、印象に残ったことが二つあります。一つはオトソン中学校で行われたダンスパーティーです。僕は、このダンスパーティーで全く知らない人とハイタッチしたりし、アメリカ人はとてもフレンドリーだなと思いました。ダンスパーティーを楽しみながら、アメリカ人のとても良い所を発見することが出来ました。

二つ目は、レッドソックスの野球観戦です。観戦中に観客の一人が大きな声で声援を送ると、それがだんだん広がっていき、最後は球場全体がとても盛り上がり、とても楽しむことが出来ました。僕は、今回のアーリントン訪問で日本では気付けないようなことに気付きました。僕は本当にこのプログラムに参加できて良かったと思います。最後に、このアーリントン訪問団をサポートしてくださった方々本当にありがとうございました。

私にとってアーリントン訪問の 12 日間は過去最高の時間でした。最年少なので体力、知力共みんなについていけるか不安もありましたが、度胸とジェスチャーで乗り切った 12 日間でした。

私が心に残った事は、ハーバード大学です。この大学は非常に優秀な学生が多く、入学するのが難しいと聞いていたので、おそらく私が実力行けることはない場所なので、目に景色を焼き付けました。建物は大きく立派で、広々としていて、色々な人種の人があちこちで歓談していました。異文化の交流が盛んだなと感じました。

次にレッドソックスの試合観戦に行ったことです。英語学習の時に習った曲が流れてきて、試合もリードしていたし、大変盛り上がり選手も観客も一丸となって大きな声で歌いました。そこでまたサプライズが！！大型ビジョンに映し出されたカップルの男性の方が、観客みんなの前でプロポーズしたのです。結果はよくわからないのですが、おそらく上手くいったはず。みんなの前でよくそんな事出来るなあとびっくりしましたがとても感動しました。意思表示はすごく大切な事なのだと思います。

最後は帰国が近くなったある日、ホストファミリー参加で開催されたフェアウェル Party です。最初は言葉も通じなくて悲しくなって、日本に帰りたい、と思ったけど、その Party の間中、ずっと永遠にこの時間が止まればいいのと思うほど、大好きになっていました。でも、日本食はいつも恋しかったです。もし、チャンスがあれば、また短期留学したいです。

大好きな英語がますます好きになって、英語をもっと勉強したいと思いました。英語が話せるようになれば世界中のいろいろな人とも交流が出来るからです。最後に、今回一緒に訪問したアーリントンメンバーは一生の友達でいて欲しいぐらい大好きです。ありがとうございました。

私は、この 12 日間でたくさんを知りました。アメリカに行くのも、ましてや日本を出ることも初めてで、いろんな人に「不安じゃないの？」と聞かれたけど、正直楽しみしかありませんでした。いざ行ってみると本当に楽しさしかなくて、その中でホストファミリーとの関わりや、いろいろなプログラム、アーリントンメンバーとの絆を深めたりすることは、今までに想像していた以上のものでした。

アメリカの生活や文化は、日本とまったく違って、でもそれぞれの良さがあって、それを自分の目で確かめて見れたことは、自分の中で本当に大きい出来事で、すごく嬉しいです。アーリントンで、目的以上のものが、果たせたと思っています。

私は、本当にこのプログラムに参加できて幸せだと思います。人生の半分くらいの運を使い果たしました。それも、支えてくれた家族や先生方、アーリントンメンバーのおかげです。本当にみんなと出会えて良かった。アーリントンに行けて良かった。でも、ここがゴールじゃない。ここからがスタートです。本当に最高の 12 日間をくれてありがとうございました。

長岡第三中学校 三年 吉谷 紫音

今回のアーリントン訪問で、貴重な経験を色々させていただいた。アメリカはすごくフレンドリーで積極的だと感じた。一番印象に残っているのが、オトソン中学校でシャドーイングをさせてもらったことだ。そのとき、席が近くになった子が「Hello」とか「What's your name?」などとたくさん話しかけてくれた。言葉が違う子に話しかけるなど私には到底できない。授業中もほとんどの人が挙手をし、積極的に授業に参加していた。私のクラスでは挙手をする人が少ないので、日本とは違うなと思った。

ホストファミリーデーに従姉妹の家に連れて行ってもらった。初めて会う私に、会った瞬間や帰る時にハグしてくれたり、家の中を案内してくれて本当にフレンドリーなんだなと感じた。

私はこのアーリントン訪問を通して、学習はもちろん、人として大いに成長できたと思う。この経験を将来に生かしていきたい。

最高で忘れられない 12 日間になった。

長岡第三中学校 三年 榊原 大和

僕にとって、この 12 日間は本当に最高の 12 日間でした。僕は初めての海外だったので、とても緊張していて不安でいっぱいでした。

最初の頃は、家に帰りたいたいという気持ちがありました。何を言っているかわからなかったのが辛かったです。でも、どんどん楽しく感じるようになっていきました。ホストファミリーと会話をしていくうちに、少しずつわかるようになっていったからです。それに、友達がいたから安心できました。友達がいなかったら、もっと辛かったと思います。友達がいて本当に助かりました。このメンバーですばらしい思い出をたくさん作れて本当に良かったです。

ダンスパーティーでは、アメリカの人と一緒に楽しく踊ることができました。アメリカの人は、みんなフレンドリーでとても親しみやすかったです。レッドソックスの試合も最高でした。みんなで盛り上がりながら楽しく観戦できました。ホストファミリーデーでは、ホストファミリーとより絆を深めることができました。ホストファミリーは、とても優しくかったです。やりたいことをやらせてくれました。本当の家族のように生活できました。

帰るとき、別れるのが本当に辛かったです。もっとアメリカにいたいと思いました。最初は帰りたかったのが、嘘のようでした。本当に最高の日々でした。言葉が違っても伝えようとする気持ちがあれば、伝わることがわかりました。もっと英語を話せるようになって、また会いたいと思いました。この訪問は僕にとって一生忘れられない思い出です。

私は、今回の訪問でたくさんのことを学ぶことができました。その中でも1番印象に残っていることは、アメリカの人達の優しさとフレンドリーさを感じられたことです。ホストファミリーはすごくいい人達で、初日、緊張していた私を笑顔で迎えてくださり、とても嬉しかったです。また、私にもわかるようにゆっくり話してくださったり、また上手く話すことができない私の英語を理解しようと耳を傾けて一生懸命聞いてくださったりして、すごく嬉しかったです。そんなホストファミリーのおかげで、私も日に日に自分から積極的にコミュニケーションが取れるようになり、すごく嬉しかったです。時には、お互いにわからないこともたくさんありましたが、そのほとんどがジェスチャーで理解でき、また伝えることができました。そのようなことから、私は、大切なのは完璧に言葉を話すことではなく、伝えようとする強い意志や、相手に伝わりやすいようにジェスチャーなどで工夫することだということが身にしみてわかりました。

オトソン中学校で授業に参加させてもらった時は、大勢の人が話しかけてきてくれて嬉しかったです。また、私のホストファミリーが車に乗っている時にすれ違った人、通った家、動物などに「Hi!」と声をかけているのを見て、日本にはないフレンドリーさを感じました。そのようなことが、アメリカの明るい国民性を築いているのだと思います。

この訪問で、私の世界はとても大きく広がりました。これからは、今回得た力をどんどん生かして、もっと自分の可能性を広げていきたいと思います。

最後に、私が今回こんなにも素晴らしい経験ができたのは、アーリントンメンバーやこの訪問に携わってくださった先生方、行かせてくれた家族がいたからです。本当にありがとうございました。

今回の訪問は、私の一生の宝物です。

アーリントンでは経験の大切さを学びました。僕は、学校では頭がいいほうで、英語も得意だし、ホストファミリーと会話することなんて簡単なことだと思っていました。しかし、いざ飛行機を降りてホストファミリーの前に立つと、アメリカ人の身長が高いからか、自分の話す英語が通用するのかどうか心配になっていたのか、急に緊張してきました。その後も、緊張しながら毎日少しずつ話すことを増やしていき、12日もすれば緊張なんか忘れて、ホストブラザーとわいわいゲームができるようになりました。

もう一つ、僕は、アメリカと日本の食文化の違いを経験しました。アーリントンに行く前は、脂っこくてあんまりおいしくないのだらうなと思っていました。でも、実際食べてみるとどの料理もおいしいし、さらに肉と乳製品はアメリカのほうが絶対においしいです。アメリカでは日本食が恋しくなったけど、日本に帰ってきたらアメリカの食べ物が恋しくなりました。

アーリントン訪問団では様々な場所で楽しい体験をしましたが、一番良かったのはレッドソックス戦です。あんなに選手と観客が一体になって、応援で相手チームを圧倒する試合は日本では見ることはできません。

こんなにたくさんの経験をさせてもらえてありがたいなと思いました。次にアーリントン訪問団に参加する人は、上原選手が見られるように祈っておきたいと思います。

4月23日～5月3日までの12日間ほどアーリントンに訪問に行って、本当にいろんな事を体験し、学ぶ事ができました。アーリントンの歴史や日本との文化の違い、衣食住の違いなど、実際に現地に行ってしかわからないようなところまで学ぶことができて嬉しかったです。また、学習会で学んだ事を自分なりに向こうで発揮できたんじゃないかなと思っています。

本当に楽しかった12日間もあっという間に終わってしまい、寂しい気持ちでいっぱいです。でも、これで終わりではなく、ここからが新しいスタートだと思うので、この訪問で学んだこと、数か月の学習会で学んだ事をしっかり日々の生活に発揮していきたいと思っています。

向こうでは、ハーバード大学見学や野球観戦、くじらウォッチングや学校体験など、楽しい事を沢山体験できて本当に夢のような時間でした。

ホストファミリーは、みんなとてもフレンドリーで話しやすく全然不安を感じませんでした。また、学校で仲良くなった友達や、友達のホストファミリーが「ルカ！」とあいさつしてくれる度、すごく嬉しくて、ここに来て本当に良かったなと心から思いました。

この訪問に行けたのには、たくさんの方々の支えがあったからだと思うので、本当に引率の先生方や現地でお世話になった方々、そして両親に感謝しなければいけないと感じました。

今回、この26人＋引率の先生5人で行けた事にすごく感謝しています。

また大きくなって、今度は自分の力でホストファミリーに会いに行けたらいいと思います。

今回アーリントンに行かせてもらってたくさんのこと感じました。ジャパン・フェスティバルや小・中・高等学校などで披露した鳴子ダンスは、日本で重ねた練習のおかげで歓声をもらうことが出来ました。日本で鳴子をするのと、アメリカでするのは全く観客の反応が違うことに驚きました。アメリカの人たちは恥ずかしがることなく、口笛や大声で歓声を送ってくれました。日本以上に気持ちよく、楽しく踊ることが出来ました。

アメリカのコーヒーショップに行った時、男の人が小銭を落とす瞬間を見ました。私が落としたお金を拾って渡すと、その男の人は『ありがとう』と言ってくれました。私の口からは「My pleasure」という言葉が出てきました。それは学習会で学んだフレーズの一つであり、自然に言葉が出たことにとってもうれしく思いました。この時、初めての海外でちゃんと話せるか不安だったものが消えて、自分に自信が持てました。また、それをきっかけに、もっと怖がらずホストファミリーや出会った人と話してみたいと思いました。

しかし、私には12日間のホームステイを終え、後悔していることがあります。アメリカについて知れたことやホストファミリーに聞いたかったことを、英語が話せず聞けなかったことが心残りです。アーリントン訪問から帰ってきた時、もっと英語を学びたい、世界について知りたいと思いました。そして、受験では高校の英語科に入って、さらに知識を増やしていきたいと決意することが出来ました。アーリントンに行ったことは大人になっても忘れることのない体験です。また、アーリントンに行きたいです。

僕が、今回のアーリントン訪問で学んだことは本当に沢山あります。まず、僕はこのプロジェクトに関わってくださった人達に、感謝しなければならないと思いました。向こうで体験したこと、向こうに行くまでにしてきたこと、そのすべてが自分にとっての糧となりました。

僕は1年の時にも応募しましたが、その時はダメで悔しい思いをしました。それでも諦めることができなく、プラスのものになりそうな英語暗唱大会に出てみたり、実際にアーリントンに行った親友に面接のことを聞いたり、どうすれば面接で自分らしさを出せるか考えたり、今思えば、あまり意味のないようなこともしていたかもしれません。

でも、それぐらい僕は、このプロジェクトに受かりたいという思いが強かったです。そしてなんとか、このプロジェクトに受かることができました。ここで僕は、努力は報われることを知りました。ここまで長くなってすみません。でも、この時と訪問の 때가、もっとも僕が大切なものを多く学んだ時なのです。それからのレッスンは、毎日とても楽しくあまり詳しく覚えていません。

そして、あつという間に出発の日が来てしまいました。ワクワクとドキドキでとても楽しみにしていました。でも行きのバスで、僕はリーダーとしての自覚が足りていなかったと知る機会がありました。それはスピーチを覚えられていなかったことです。リーダーなのに、なんの自覚もせずに準備をしてこなかった自分が恥ずかしくなりました。それからスピーチを必死に覚え、普段は、できる限りリーダーとしての自覚を持つように意識して生活しました。

しかし、偉そうなことを言いましたが、自分は向こうでいろいろヘマをやらかしてしまいました。例えば、パスポートを落としたり、ダンスで使う小道具を、ホストファミリーの車に忘れたりと大事にはなりませんでしたが、リーダーとしてはかなり頼りなかったなと思います。

そんな僕でも、リーダーとしてなんとかいられたのは、メンバー同士、仲が良く団結力があって、僕をいつも誰かが支えて応援してくれたからです。こういう時は、仲間が大切で本当に頼もしいものなのだなと思いました。

そして、もう一つの心の支えになったのは、ホストファミリーです。最初に会った時から、最後まで、全員がとても優しく親切にしてくれて、会った時はビックリしたけど、言葉で表現できないくらい嬉しかったです。

最初は、言語がうまく伝わらなかったり、会話ができてなくて申し訳ない気持ちになったりしたけど、段々と気にしなくなりジェスチャーや文法を無視して、単語などで伝えたりしました。そのおかげで、ジェスチャーはかなりうまくなりました。相手にとっては、かなり変わった子に見えていたかもしれません。しかし、それでも通じるのだというのが体験してみて分かりました。本当に必要なのは、会話できるかではなく、しようとしたかだと本当に身に染みて分かりました。

昼も夜も仲間とホストファミリーの温かい雰囲気の中にいたので、僕にとってこの旅はどんなことも最高の思い出になりました。

最後に、このプロジェクトに関わってくださった全ての方に言います。

ありがとうございました。本当に楽しかったです。とても長くなってしまいました。最後まで読んで頂きありがとうございました。

私は、ホームシックにはならないと思っていました。でも、ホストファミリーの家に着いてベットに入った時、これからここで過ごしていかなければいけないと思うと、しんどい気持ちになりました。そんな時、心の支えになったのが、毎朝会えるアーリントンメンバーです。移動中のバスでは、毎回歌を歌ったりして目的地に早く行きたいけれどバスの時間が恋しくて、そんな特別じゃないことが楽しかったです。アメリカに行く前の勉強会ではほとんど喋ったことのない人とも、とても話すようになって、その人が意外な性格だったり、知らない一面も出てきて、メンバーみんなをもっと好きになりました。

アメリカの町並みは、想像していた映画のような町並みで、アメリカの人たちはとてもフレンドリーでいつでも笑顔でした。アメリカでの自分の変化に気付いたのは、人と話した時でした。スーパーとかで、人とぶつかった時、日本では、小さい声で謝っていたけれど、アメリカでは相手の目を見て謝るようになったし、ホストファミリーに何かを伝えたい時、身振り手振りで必死になって伝えられるようになりました。言葉が思うように伝わらない分、相手と一生懸命会話するようになりました。ホストファミリーとの生活が楽しく感じられるようになったのは、朝の家族の会話が理解できた時でした。会話が理解できただけでその日が楽しくて、その日から家に帰るのが楽しみになりました。

今回、アーリントンに行けて本当によかったと思っています。よいホストファミリーと出会って、よい仲間と過ごして、刺激いっぱいの日を過ごして、今までの人生で一番濃い 12 日間になりました。一つ一つ感想を言っていたら、一言では終われないくらい沢山の思い出が出来ました。この経験を生かして、英語をもっと勉強して、同じメンバーで海外に行きたいです。

私はアーリントンを訪問して本当に良かったと思います。12 日間本当に充実して刺激しか無い日々でした。毎日ワクワクしながら街並みを眺めて、「次はどこに行くのかな？何を見れるのかな？」と、興奮と疑問が溢れていました。

そして私はこの旅で意欲的にどんな事にも挑戦することの大切さと楽しさを学ぶことが出来たと思います。ジャパンフェスティバルで多くの観客や大きな舞台を見たとき、不思議と緊張感より先に「こんな所で日本の踊りを披露出来るなんて、なんて光栄な事なんだろう！楽しもう！！」という気持ちが湧いてきて自分でも驚きました。ホストファミリーや学校で知り合った友達にどんどん質問して、それでも簡単に理解する事は出来ませんでした。疑問に思った事が分かり、自分で理解出来たことがとても嬉しくて楽しく思えました。そして分からないなりに聞いて、相手も必死でわかるように喋ってくれて、そういつ 1 つ 1 つの事で仲が深まるのだなと実感できました。そうすると自然と色々な所で疑問が湧いてきました。オーストラリアに行ったときは、聞きたい事も聞き方が分からず、喋ることに躊躇してしまいました。そういう所では少し、成長出来たのではないかなと思います。

そしてアーリントンを実際に訪問し、年齢も違う中学生、あまり深く知らなかった高校生メンバーとも仲が一気に深まり、とても大切なメンバーとなりました。

僕はアーリントン短期留学に行って、驚いたことや良かったことが沢山ありました。僕がアーリントンに行って一番驚いたのは僕と同年の 17 歳の男子が自分で車を運転して通学していたことです。アメリカでは 16 歳以上で運転出来ると聞いて文化の違いを感じました。

そして、良かったことは色々な経験が出来たことです。学校では体育の授業でロッククライミングをやったり、訪問団の皆とはホエールウォッチングに行ったり、レッドソックスの試合観戦をしました。

また、僕が何より良かったと思ったのは、このアーリントン短期留学を通じて色々な人と出会えたことです。アーリントン短期留学のお陰でホストファミリーや現地の中学生、訪問団の皆と最高の仲間に出会うことができたと思います。この短期留学をきっかけにこれまで以上に英語の勉強に励みたいと思うようになりました。短い期間ではあったけど、このアーリントンでの 12 日間は決して無駄にはならないと思います。

西乙訓高校 二年 篠邊 大地

私が、アーリントン短期留学プログラムで学んだことは、今の自分の英語力ではどの程度まで海外の人々と話せるのかということです。

この 12 日間でたくさんのアメリカの人たちと話していくうちに、勘違いでピアース小学校集合なのにホストシスターと一緒にアーリントン高校に行ってしまいました。間違いに気づき、ピアース小学校までの道のりを、すれ違う人たちに尋ねながら向かったとき、S の発音のズとスで何度も聞き返されたことがあったからです。でも、そのときに、この 6 ヶ月間の学習会で学んだことを活かして道を尋ねました。あせっていたところで、聞いた人たちのうちの男性が車で送ってくれると言ってくれました。その車内では、たくさんの会話をすることができました。ほんのわずかな時間だったけど、アメリカでたった 1 人で起こったハプニングに対応することができました。これらのことからアメリカの人たちはとてもフレンドリーだということが分かりました。

西乙訓高校 二年 東 千夏

私が Arlington に行って学んだことやこれからの思いが 4 つあります。1 つめは、自分の意見を持つことと積極性です。オトソン中学校に行った時の授業体験で、積極的に授業を受けることで、今自分がすること、そして自分が分からないことを明確にすることができるのではと感じました。そして、政治について(大統領選挙)ホストファミリー含め、高校生が「自分はその人を支持する。なぜならこうだから」と自分の意見を述べていました。日本ではこのような光景は見たことがなく、驚きました。

2 つめは、英語についてです。アメリカで生活していて、日本ではあまり使うのを聞いたことがない言葉が使われていて、とても面白かったです。そして、英語でテレビや映画を見た時、ホストファミリーは笑っているのに、私は英語が理解できずその輪に入ることができませんでした。とても悔しい思いでした。ですがそのことによって、今後の目標ができました。

3 つめは、繋がりについてです。訪問団員や、ホストファミリーとの繋がりはもちろん大切にしますが、今回の訪問で出会った中国の女の子と仲良くなることができました。今でも連絡を取っていて、英語のことやアメリカのこと、ホストファミリーに送るメールについて相談するなど、今後も繋がっていたいなと思える人に出会えたことがとてもいい経験になったと思います。

4 つめは、今後の目標ができたことです。今回の訪問に行ったことで、大学について真剣に考えることができました。そして、それに向け、真剣に今まで以上に勉強に励もうと言う気持ちになれました。この作文を書くことで、気持ちが整理され、より明確な目標ができたと思います。Arlington で経験したことは何一つ無駄のないことだと実感しています。本当にいい経験になったと思います。

このアーリントン訪問は間違いなく僕の最高の思い出になりました。半年間、26 人のメンバーや先生方、AET の先生方と学習会をして、自信をつけてきました。英語力はもちろんコミュニケーション能力も身に付きました。でも、いざアーリントンに到着すると周りから耳に入ってくる言葉がすべて英語なので、少し戸惑いもあり、自信を失いそうになりました。そんな時は、訪問団の仲間や優しいホストファミリーと会話をする、不安などは一気になくなっていきました。これが、別れのときの涙につながったのだと思います。楽しかったこともたくさんありました。僕が一番楽しい時間を過ごせたのは、オトソン中学でのダンスパーティです。生徒の皆と一緒にダンスをして、ご飯を食べました。このパーティは時間を忘れるほど楽しく最高の思い出になりました。

このアーリントン訪問は、僕にとって様々なことを教えてくれる旅になりました。この旅での経験を、何かの形で日本の生活につなげていきたいと思います。

アーリントンへ行って気付いたことは 3 つあります。1 つ目は、自分自身の英語力です。今まで、自分の英語力を試す機会がなかなかなく、あったとしても、英語の授業で日本人とディスカッションする程度のものでした。日本語の通じない世界に行ってみて初めて、自分はどれほど英語が話せないのかという事を思い知りました。言いたい事の半分も口に出来ない辛さや悔しさを痛感しました。しかし、私はむしろそれで良かったと思っています。日本にいたら、いつまでもこの悔しさを知ることはなかったし、西山先生がおっしゃっていたように、この悔しさ知って、ここからどうするのかということが重要だと、私は思います。

2 つ目は、大事なのは、言葉だけではないという事です。向こうの人は、眉毛を上げたり下げたり、目を見開いたり、口をへ字にしてみたり、もちろんジェスチャーをしたりと、すごく表現力豊かなのです。私もマネしてやってみると、意外にも相手の人と何か言葉ではない通じるモノがあり、自分の気持ちがより伝わったような気がしました。こういう表現はやはり世界共通なのだという事を実感しました。

3 つ目は、アメリカ人はすごく愛国心が強いという事です。滞在中、ホストファミリーや学校の生徒たちがアメリカについて色々話してくれるのですが、「日本はどんなの？」と聞かれると上手く答えられない自分がいました。アメリカに来て、思っている以上に自分が日本について知らないのを実感しました。自分も含め、日本人はもっと愛国心を持つべきだと感じました。日本だって素晴らしい国です。日本に留学生が来た時、その素晴らしさを英語で、より詳しく伝えられるようになりたいと強く思いました。

この訪問を通して得た事は沢山ありますが、何より良かったのは国境を越えた家族や友達が出来たという事です。これだけ沢山のひとと繋がりを持てた事は私の人生の大きな財産になりました。この経験をもとに、もっと人間的にも成長して、いつか立派な姿でまた彼らに会えたらいいなと思います。

僕はこのアーリントン短期留学で日本とアメリカは世界観が全く違うと思いました。そしてその違いの源は、考え方の違いにあると僕は考えました。そう考えた理由は、アーリントンでの学校訪問にありました。アーリントンの学校では、授業中にジュースを飲むことが許されていたり、ガムを食べることが許されていたり、私服で授業を受けることが許されていました。これらは僕の通う西乙訓高校では全て校則違反になります。なぜなら、学校は勉強をする場であり、それらは不必要なものだからです。このことについては間違っていないと思います。では、それが許されているアーリントンの学校は間違っているのかというと、そういうわけでもありません。なぜなら、国が違い、考え方が違い、そして世界観が違うからです。

このように、2 つとも違っているけれど、2 つとも正解で、2 つとも良いものです。僕は、この 2 つの国がこんなにも違う理由には、言葉が関係してくるのかなと思いました。日本語は日本人の考え方や感じ方を文字にした言語であり、英語は話されている国の人々の考え方や感じ方を言語にしたものです。これを受け継いで使い続けると、同じ考え方をする人が自然と多くなり、そして 2 つの国はどんどん違う国へと変わっていくのだらうと思います。未来の日本とアメリカはさらに違うところが増えていくのだらうと考えると、次、アメリカに行く時が楽しみだと思いました。

私は、アーリントンに短期留学をして、本当によかったと思いました。アーリントンに行き行って気づいたことがたくさんあります。まずは、単純に異文化に気づいたことです。家の大きさや土地の広さが全く違うことや、お風呂は朝に入ること、主食はパンで昼食には必ずと言っていいほど軽食に林檎が付いていることなど、たくさん気づくことができました。

もう一点、気づいたことは、日本がやっぱりすごい国なのだということです。親が毎日お弁当を作ってくれるすごさや食べ物の味付けに失敗がないこと、お店などではおもてなし精神がすごいことなど、アーリントンに行ってからこそ初めて日本のすごさに気づくことができました。

私は元々英語が苦手で、この留学をしたら英語を好きになれるのではないかという気持ちで参加をしました。そうすると、やっぱり「英語って楽しいかも！」「英語って本当に大事！」と思えるようになりました。向こうであまり英語をしゃべることができなくて悔しい思いをしたので、頑張って勉強してみよう！と思えるようになりました。本当に自分を変えることができました。必ず、英語をペラペラに話せるようになって、またホストファミリーと喋るぞ！本当に良かったです。

この 12 日間で、僕は多くを学びました。アメリカの自由な文化や歴史、そのほかにも口では表現し難い多くの物ごとに触れ、楽しく充実した日々を過ごすことができました。それらを終えて、日本の、今まで過ごしてきたこの町の小ささを痛感すると共に、今までお世話になってきた人々に心から感謝しています。

アーリントンでの生活から食生活の違いに気づきました。もちろんナイフとフォークを使うのですが、日本食よりもひとつひとつが重たいのです。味が濃かったり、脂が多かったりと、日本ではなかなかない物だったと思います。ほかに、一番感じたのは「自由」だということです。僕は現地で野球をし、日本ではフォームに重きを置くのですが、そこでは自分自身のフォームを一人ずつ持っていました。生きていて苦しくないというか、堅苦しくないと思いました。本当に有意義な生活だとつくづく感じています。そして今、こんなにも大きく特別な機会にとっても感謝しています。お金やそのほかの準備を手伝ってくれた両親や、6ヶ月の学習会や現地でも引率をしてくださっていた先生方、学習会や現地での活動などを共に頑張り乗り越えてきた仲間たち、そして、現地で僕たちを温かく向かえてくださったホストファミリーの方々。どれか一つでも欠けていたなら、あんなにも良い日々は過ごせなかったと思います。これからの生活にどう活かす事が出来るのか、正直まだはっきりとは分かりませんが、「自由」で「大きい」アメリカという国でのこの経験は一生忘れることはないと思います。この訪問団に関わったすべての人に感謝で一杯です。近い将来、またホストファミリーにお礼に行こうと思っています。その時は自分の気持ちを英語で伝えられるように勉強に励んでいこうと思います。

僕はアーリントン訪問団に参加し、アメリカに行って多くのことに驚きました。また、アメリカに行くのは三度目でしたが、半年ほど勉強をしてきた仲間たちと行くことで新たな発見もありました。今回、訪れるにあたって、自分の中で目標がありました。それはアメリカの方と会話をするということでした。英語を話せるようになりたいという強い思いをかなえるにはとにかくたくさん会話をするのが大切だと思ったからです。そして、僕はおよそ 12 日間のなかでたくさんのコミュニケーションを取ることができました。その中で一番驚いたことは、アメリカ人には Yes か No しかなかったということです。僕は時々返答に困ってしまうときがありました。しかし、それも一つの思い出です。はっきりと自分の意見を伝えることができました。また、もう一つ驚いたことがあります。それはアメリカの方は本当にフレンドリーだったということです。初めて会った方でも以前から親しい仲だったかのように接することができました。そのおかげでアーリントン高校や中学校に行っても本当に多くの方と仲良くなることができました。そして、それ以外にも野球観戦をしたりホストファミリーデーに近所の方も寄ってバーベキューをしたり、最終日にホテルで一緒にアメリカまで来た仲間と思い出を語ったりとすべてのことが最高の経験となりました。また、この経験は自分の英語学習への活力となりました。いつか必ず英語を習得して、もう一度アメリカへ訪れたいと思います。



長岡京市→関空→成田→シアトル→ボストン→アーリントン

H28(2016)/4/23

No 1



午前9時バスに乗車。関西空港へ！

- ・中小路市長をはじめ校長先生方、保護者の皆様など多くの関係者の方々に見送られ、全員そろって元気に長岡京市を出発しました。
- ・バスの中では、様々な注意事項や心構えを聞き、歌やスピーチの練習もしました。
- ・関西空港でお弁当を食べ、いよいよゲートへ。



初めて間近にみる飛行機に早くも興奮気味の生徒もいて、みんなで仲良く写真を取り合っていました。

- ・今回の一番の難関は、短時間でのシアトルでの乗り換えで、素早くできるようにとのお話がありました。



16時30分 DLA166 便で日本を離陸！

- ・いよいよ太平洋横断しシアトルへ、そしてアメリカ横断という長いフライトが始まりました。フライト時間は合わせて、14 時間です。

飛行機の中では・・・

・離陸寸前、ポテトチップスの袋を出し写真を撮っているではありませんか。どうやら気圧で袋がどのように膨らむのか実験をした人が！



・他にも、近くに座っている外国人の小さな子どもに手を振ったところ、好かれてしまい、膝の上に座らせてあげたり添い寝したりと、すっかりママ役になっていた人も！

・おしゃべりしたり、本を読んだり、映画を見たり、ゲームをしたり英語の勉強をしたり・・・思い思いに過ごしました。CAさんに良い生徒さんだとほめていただきました。

空港では・・・

・手荷物受取場では、男子生徒の出番です。赤いリボンが付いた重いスーツケースを見つけては、せっせと運びおろして大活躍でした。



午後8時ボストン、夕日と共に到着！

・コーディネーターのジョアンとその娘さんが日本の国旗を持ってお出迎え。



長時間の疲れが一気に吹き飛んで、テンション上がり、笑顔があふれました。

・ボストン空港からは、スクールバスに乗って、アーリントンのジョアンのお家に向かいました。そこには大勢のホ



ストファミリーが、生徒の顔写真をもって待っていてくれました。

・それぞれのホストファミリーに連れられて、各家に散って行ったのは、現地時間の午後9時ごろとなりました。自己紹介したり、軽く食事したり、お土産を渡したりして、心に残る出会い＆一夜となったことでしょう。



思い出のアルバム (アーリントン到着編)





ジャパンフェスティバルにて



10時30分アーリントン高校に集合

・はじめてホストファミリーと一夜を明かした生徒たちが、ホストの車に乗せてもらって、全員元気に集まりました。本日も快晴です。

・お互いに会ったとたん、「日本語が話せてほっとする〜!」「もうホームシックになったわ!」「YesとNoしか言えへんかった」「朝ごはん、もう作ったで〜」などなど大盛り上がり。



・わずかな時間でしたが、アーリントン高校前の広場で鬼ごっこや木登り、サッカーなどして思いっきり体を動かし遊びました。

アメリカ最古の公園ボストンコモンへ!

・着いたのは、町のど真ん中にどーんと広がる緑のオアシス。あまりの広さと美しさに感激していました。

・早速出会ったのは「リス」。次はキュートなアメリカの子ども。カメラを向けてついついシャッターをおす生徒たち。



・美しい湖に浮かぶスワンの乗り物で遊覧し、素晴らしい景色を満喫。この乗り物、優雅に見える一方で、実は一番後ろにいるアルバイト生が足で漕いでいるのでした。

ジャパンフェスティバルに人がいっぱい・・

・ボストンに住む日本人たちを中心に、食べ物や着物などの衣類、習字や折り紙体験などのブースが並び、大勢の人が集っていました。



・時々セーラームーン、ピカチュウ、スーパーマリオなど日本のアニメキャラクターに扮した人があちらこちらに。浴衣を着た人たちも見かけました。



ステージでのパフォーマンス！大成功！

・ステージ裏で衣装に着替えて、いざ出陣。今回は、アメリカでの初めての披露となるのですが、リハーサルはなく、いきなり本番です。

・観客がいっぱいの中、リーダーのスピーチ、歌ビリーブ、ダンスの解説、鳴子ダンスの順に約10分間のパフォーマンスを行い、大きな拍手に包まれました。彼らの勢いを感じました。

・午後からはホストファミリーデー。迎えに来られた時の様子に、まだ緊張が見られますが、とてもあたたかく受け入れてくださっていることがひしひしと伝わってきました。





ピアース小学校での交流

① ウェルカムセレモニー！

・体育館に全校児童が集まり、ウェルカムセレモニーが行われました。教育長、校長先生や関係者が挨拶を行った後、代表としてフミが堂々と素晴らしいスピーチを披露、一人ひとりにプレゼントもいただき



ました。

・次に4年生の子どもたちが歓迎の歌をプレゼント。なんとこれまで練習してきた「Take me out to the Ballgame」だったので生徒たちも自然と口ずさみ、一緒に盛り上がりました。

・最後に「ふるさと」「Believe」「This land is your land」「鳴子おどり」を披露しました。昨日よりもさらに磨きがかかり、男女の歌もきれいはもり、踊りにもキレがありました。アユミの美しいソロやシンジの「かまえ」から始まる力強いダンスなどから、日本のよさを感じとってくれたのでしょうか。多くのアメリカの先生から褒めていただきました。

② 交流（校内見学ツアー、日本の文化交流）

・グループに分かれ5年生が英語で説明をしながら案内。各教室では、アメリカの子どもからの容赦ない英語での質問が！タジタジになりながらも、必死で答える頼もしい姿が見られ、中でもやはり高校生のリーダーシップが光っていました。

・けん玉、習字、折り紙のグループに分かれての文化交流は、2、4年生で行いました。2年生の教室に行くと、なんと10分間しかないと言われたのです。しかしやるっきゃない！誰一人、無理だ！とは言わず、準備とは異なることをとっさに考え、工夫する柔軟な対応力が発揮されていました。

・「けん玉はひざを曲げてするといいよ」「日本語で書きたい好きな言葉ある？」折り紙で折った



鳥を渡して「ここをつまんで動かしてごらん！」などなど・・・小さな子どもたちに教えてあげたい、喜ばせたい、という気持ちが、言葉としてぐさでのコミュニケーションをより一層深めていました。

・校長先生からお礼にと、一室でスナック菓子を用意されていました。日本では考えられないアメリカンスタイル！

・日本とは異なる廊下や教室のカラフルでユニークな掲示物に興味を持ち、写真を撮っている人も多かったです。

ハーバード大学にてランチ&見学ツアー

・家で作ってもらったランチ(サンドウィッチ、スナック菓子、チョコレート、バナナ、まるごとりんご・・・)をほおばり、仲良く休憩。

・とてもハンサムで素敵なハーバード大学の学生さんが、ツアーガイドしてくださいました。

・天体観測できるサイエンスセンター、南北戦争で北軍に加わり戦死した学生の名が記されているというステンドグラスが美しい記念ホール、タイタニック号の沈没でなくなった学生の親が寄付して建てた美しい図書館などを見学。



・ユウヤが積極的にガイドさんに質問。

・大学内のCOOPでは、ロゴ入りのノートやマグカップ、キーホルダーなどお土産を購入していました。

・驚きのハンバーガータワー

・アメリカといえばハンバーガー。12個のハンバーガーがくし刺しにされて届いたときにはどよめきが！挟まれているハンバーグも分厚くとても食べごたえがあり、1個全部が食べ切れなかった人も！



・このような食文化の違いはホストファミリーとの生活からもきっとたくさん学んでいることでしょう。少し胃もびっくりしているようです。
・食後はリバーサイドで自由に遊んだりくつろいだりと、ホッとタイムとなりました。

タウンミーティングでもあたたかく歓迎

・アーリントンでは、21区から各12名、計252名の市民が出てきて予算と条例を決めるタウン



ミーティングがあり、第一回目を見学しました。

・姉妹都市市長岡京市から来た私たちを紹介していただきました。充実した1日でした。



花、野菜、スイーツいっぱい！ウィルソン農園！

・ツアーが始まる前にガイドの方から全員にリンゴがプレゼント。「お腹が減っていると、ついつまみ食いしたくなるため、りんごを食べてね！」とのこと。つやつやの美味しいリンゴをかじりながらツアー開始しました。



・種の蒔き方や、苗の作り方、生産物の洗浄方法などについて英語で解説、分かりやすく話してくださったので理解できた人も多かったです。
・山羊やニワトリ、ラマにも会えました。

雨風の中、レッドソックスのホーム球場見学

・激しい雨風となり震えながらの見学になりま

したが、野球が大好きという男子たちは興奮気味。さらに野球に熱い日本語ガイドさんで大喜び。あらゆる場所をカメラにおさめていました。

・メジャーリーグ最古の球場でもあり、改築前に使用していた観客席が一部残されており、そこに座って集合写真を撮りました。

・また、グリーンモンスター（左側にある緑色の巨大なフェンス）裏にある特別席やプレス席などにも入ることができ大喜びでした。

プラットピットが座った場所も教えてもらい、こぞって座ったものの、後でこっそり「プラットピットってだれ？」という質問も！



ファニエルホールでランチ&ショッピング

・午後からフリーダムトレイル（徒歩でのツアー）を行う予定でしたが、悪天候のためスクールバスで移動。

・美味しそうな食べ物とボストン土産がずらりと並ぶショッピングモールで、お昼休憩です。

・アメリカの国旗、ボストン名の入ったキーホルダー、はがきなどのお土産を買いました。

・集合場所に、なんとボストン名の入ったトレーナーやCap、サンングラスなどを身に付けているボストンBOY&GIRLが登場。

・帽子に名前を刺繍してもらったり、店員と会話しディスカウントしたりと、英会話の上達ぶ



りがうかがえました。

ボストンの街を散策&州議事堂へ

・午後は雨が止み、「歩いてるだけでも楽しい〜」とレンガ壁の素晴らしい建築物がそびえる街中を散策し、コナー先生の案内で州議事堂に向かいました。



・ボストンのガイドの英語の説明をやさしい英語や日本語で解説してもらい、政治について学びました。

・寒さのせいか疲れがみられたため、残りの約1時間を再度ショッピングモールで自由行動に変更。すると一気に元気に！本日の気温は5℃でした。





日本と異なるアメリカの高校の様子に驚き！

・高校では、グループに分かれ活動。3年前の長岡京市 AET でしたジャスティン先生と再会！今回、コーディネーターとしてお世話になりました。

① 学校ツアー

先生ごとの教室があり、毎時間そこに生徒が勉強しに来ることが一番の違い。生徒が一斉に移動するため、チャイムがとても重要になります。その音がなんと日本でいう緊急避難時のサイレンの音と似ており、鳴るたびにみんなで、びっくりするわ！と驚いていました。教室の数、グラウンドの広さなどにも「いいなあ」とつぶやく子どもたちでした。

② 英語の授業に参加

日本でいう国語の授業を受けました。アメリカの生徒たちに混ざり、50分間みっちり英語を聞き、詩を作ったり文の要約をしたりするなど、分からないながらもがんばりました。

③ ウェルカムセレモニー

ホールに集まってきた高校生たちは総勢約200人ほど。これで3度目ですが、これまで以上に気持ちのこもった熱い歌やダンスでした。大舞台での緊張感を、エネルギーに変えられる素晴らしい訪問団だと感じました。



④ クライミング体験でエキサイティング！

学校の敷地内に、日本では考えられないほど大きなクライミングジムがありました。一人ひとりロープを装着するためのものを体に取り付け、いざ体験！あまりの高さにやりたくないといった生徒も数名いましたが、周りのあたたかいエールと勇気により、全員体験できました。中には、着陸するなり「最高！もう一度したい！」と快感を覚えた生徒も。大人たちは、「とてもできそうにないね」とこっそりつぶやいていました。



大自然の中、スケールの大きいアメリカならではの貴重な体験ができました。

⑤ はじめてのスクールランチ！

サンドイッチやサラダなど種類が豊富なバイキング形式のランチ。他にも4種類の牛乳、スナック、フルーツなどあり、山盛り盛り付け、お天気が良かったので、外で食べました。



⑥ 現地高校生と調理実習にトライ！

調理実習に参加し、アメリカンスイーツの代表「チョコチップクッキー」を作りました。バター、卵、砂糖、小麦粉、チョコチップを混ぜて焼くだけ。日本のように、衛生面を意識し、細かい手順を重視する調理実習とは違い、エプロンもせず、ものが散乱している中、とてもおおざっぱな工程に、生徒たちもびっくり！ところが仕上がりはとてもおいしくできました。



銃弾跡のあるジェイソン・ラッセル家を見学

- ・アメリカ独立戦争の開始日の1775年4月19日に起こった「レキシントンコンコードの戦い」の中で、このラッセル家前でも12人の民兵がイギリス軍に殺されました。
- ・家の中には銃弾の跡が…約240年も前の家や家具からアーリントンの歴史を感じました。
- ・日本語に訳して伝えようと努力して下さったガイドさんのあたたかさにも触れました。
- ・待ち時間は、外の芝生で休憩。学年性別関係なく仲が良く、「だるまさんが転んだ」「缶けり」を楽しみました。



待ち遠しかった！レッドソックス観戦！

- ・一番の楽しみにしていた生徒も多かった野球観戦！見学の時とは異なり、グリーンが美しいグラウンド、赤で埋め尽くされた熱気ある観客席やライトで一気に興奮。野球少年たちは、飛んでくるであろうボールをキャッチしようとグローブをはめたり、オフィシャルショップで買い物したり食べ物を買ってお腹を満たしたり、選手をカメラに押さえたりと思いおもいに試合を楽しみました。残念ながら上原選手を見ることはできませんでしたが、試合は勝利！上機嫌でハードな一日を終え、午後11時過ぎに帰宅しました。





オトソ中学校→ACMI（アーリントン地域放送）→アイスクリーム

H28(2016)/4/28

No 6



オトソ中学校でシャドーイングに挑戦

①学校での朝ごはん

カフェテリアで朝食が用意されており、注文すれば食べることができます。



本日は7時集合と大変早かったのですが、スナック菓子、ヨーグルト、マフィン、フルーツなどを朝から元気にモリモリ食べていました。

②ウェルカムセレモニー

みんなが見守る中リーダーのケイトが無事に挨拶を終



え、その後いつものようにパフォーマンス。これで最後だと思うと胸が熱くなりました。オトソ中学校からはお礼のパフォーマンスとして、オーケストラの演奏（モーツァルト）を披露。一人ひとりにオトソ中学校Tシャツのプレゼントをいただきました。あまりのうれしさに、緑の制服を脱ぎ捨て、いただいたTシャツを着て、写真撮影を始めてしまったほどでした。

③一番の山場！シャドーイング

他の仲間とは離れ、オトソ中学生徒とペアを組んで、一日中授業体験しました。5時間もの授業



を受けました。英語、地理、科学、数学、美術、技術など all English で聞くことは、生徒たちにとってかなり過酷な挑戦でした。

「半分ぐらい分かった!」「数学は何となく解けた!」「ちょっと途中眠りかけたわ!」「もっと勉強して来ればよかった。分からへんのがくやしい」など一人ひとり感じ方は違いましたが、全員乗り切りました。

ACMI(アーリントン地域放送)スタジオで..

・TVショーの撮影を行っているスタジオ見学と体験を行いました。アーリントンの市民ならだれでもここで撮影し、放映することができるそうです。

・本格的な機材がそろっており、ユウがディレクター、ナオが音声、ユウヤとハルとヒカルとカヤコがカメラマンで、リーダーのスピーチとその仲間たちの様子を撮影しました。

・最後に質問のやり取りの中で、シンジが「この仕事で大切なことは?」と聞くと、「大事なのは Teamwork & creative」と教えていただき、みんな頷いていました。

・帰りに近くにあるアイスクリーム屋さんへ! Sサイズなのに日本の2つ分の量があり、大喜び。頑張った後の甘い sweets は最高でした。



思い出のアルバム (オトソン中学 & ACMI 編)





クジラの姿、あちらこちらで発見！

- ・バスに乗り、ボストンの港に着きました。
- ・ホエールウォッチングです。船に乗って約一時間程度でスポットへ到着しました。
- ・船酔い気味の生徒も数名いましたが、クジラが現れると、元気にデッキに上がっていました。
- ・はじめは、なかなか姿を現さなかったのですが、しばらくすると、「〇〇時の方向」と館内放送が入り、あちらこちらに現れ歓声が！思ったよりたくさんのクジラを見ることができました。

- ・何とか写真に収めようと、必死！ところがうまくタイミングが合いません。そこで考えたのが「動画撮影」！勢いよく潮を吹いて現れる様子をばっちり収めることができ、大満足でした。
- ・寒さを心配していましたが、ウォッチングの時には風もピタッと止まり、海は穏やかでキラキラと輝き、最高のコンディションでした。



グループで水族館&ショッピング！

・すぐ近くにある水族館に入り、グループで見学しました。入ってすぐのところには、エイが泳いでいる水槽に手を突っ込んで、エイを触ることができるコーナーがありました。又メットとして気持ち悪い〜と言いながらも、近寄ってくるエイの姿がかわいくて、何度も触れていました。

・他にも、様々な生き物たちを、見たり触れたり、体験したりするコーナーが充実していました。



オトソン中学校でダンスパーティ！

・いったん家に帰り、食事を済ませた後、身なりを整え、またホストファミリーにオトソン中学校まで送迎してもらいました。

・女子の中には、ワンピース、髪型、アクセサ



リーと思い思いにドレスアップをしていて、特に高校生の素敵な装いに中学生は見とれていました。



・曲が鳴ると同時に、踊り始める現地の生徒たち。26名の子どもたちもすぐに入り込んで、体でリズムをとり、とても楽しそうです！

・円陣ができると、順々に円の真ん中に出てきては自分の自慢の踊りを披露していく・・・ダイチ、シンジ、ルカ、ケイト、ケンタロウ、コウタロウたちは、積極的に中心に飛び込んで、場を盛り上げていました。

・ダンスはちょっと・・・と思っていた子たちも、自然と体が！日本とは異なるこの文化や雰囲気を楽しみ、また新たな自分に出会ったのではないのでしょうか。2時間ぶっ続けで踊ったことは、心に残る思い出となったことでしょう。

・暗い照明の中でのダンスパーティのため、写真では、この熱気と盛り上がりをお届けできないのがとても残念です。

ホストファミリーデーは、お便りはありません。有意義に過ごしてくれることを期待しています。





ホストファミリーとにこやかに集合！

・このプログラムのフィナーレをかざるフェアウェルパーティ。集まってきた生徒たちは、2日間のホストファミリーデーを過ごしたことで自信をつけたのか、笑顔でホストファミリーと仲良くしていました。

・女子は持ってきた浴衣に身を包み、とても華やかな装いで、パーティを盛り上げます。



・持ち寄りのディナーもずらりと並び、とってもおいしそう！サンドウィッチ、大きなきゅうりのピクルス、チョコクッキーやケーキなど親しんできたアメリカの食事とも、もうすぐお別れです。

特技を披露！けん玉グループ&ギター

・どのような流れで進むのか、全くわからない中でしたが、何となく特技のお披露目大会のようなものが始まったのです。太鼓、タップダンス、紙コップを使ったパフォーマンスなど……。これは彼らも何かしなくちゃと、けん玉グループが舞台に上がり、一人ひとり得意技を披露しました。剣先、飛行機、世界一周など技が決まるたび拍手が！また、突然、ユウヤがギターをもって弾き語り！素晴らしかったです。どんなことにも柔軟に、堂々と対応する彼らでした。日本での学習会で行った劇の表彰もしました。



感謝の思いをこめ最後のパフォーマンス!

・これで5度目となる歌&ダンス披露。これまで中々演奏する機会がなかったのですが、今日はカヤコ、ミナミのピアノ伴奏に合わせ、心のこもった歌が響き渡りました。

・また、鳴子ダンスにも気合が入り、終了後、多くのホストファミリーから絶賛の声が上がりました。

・いよいよ最後のスピーチです。リーダーたちがホストファミリーと一緒に考えてきた感謝の言葉を伝えました。フミは明るい笑顔で、ケイトは笑いを取り、チナツは思いがあふれ涙ながらに！ホストファミリーの心にも十分届いたことでしょう。



・最後に、このプログラムのため、ボランティアで準備をしてくれたジョアンへのサプライズのメッセージとプレゼント、そしてすべての人に歌を送りました。これらはバスの中でみんなで考えたことでした。



・「世界に一つだけの花」振付付き、ミクの元気な指揮付きで送りました。みんなの気持ちが一つとなり、ミクの目からも涙が！すると他のメンバーたちの中からもすすり泣きが・・・会場が感動の渦に包まれました。

・「帰りたくない〜」「もっと一緒にいたい〜」と言いながらホストファミリーや仲間と写真を撮り合い、名残を惜しんでいました。

・とうとう明日は Last Day となります。

思い出のアルバム(フェアウェルパーティ編)





レキシントン→サイエンスミュージアム→お別れ

H28(2016)/5/3

No 9



歴史めぐりレキシントン！

・最終日はレキシントンに行きました。アメリカ独立戦争のきっかけとなった「レキシントンコンコードの戦い」について、



コナー先生がとても分かりやすく説明してくれました。学習会で少し知っていることもありますが、何よりこの10日間でリスニング力がぐんとアップしているからでしょう！みんな頷きながら聞いていて「コナー先生の説明よ

くわかった!」と言っていました。

・その後たくさん並んでいるお墓を見て回って、年代の一番古いものを捜し歩きました。

・メイプルシロップ、ボストン茶会事件にかけたティーバック、絵葉書、本、チョコレートなどショッピングも楽しみました。

サイエンスミュージアム

・初めに科学者であるベンジャミン・フランクリンの稲妻の研究に即したエレクトロニックショーを



見ました。大胆で激しい音と稲光にびっくりしながら楽しみました。

・昼食を済ませ、オムニシアター「NATIONAL PARK IN AMERICA」を見ました。偉大な地形の様子や壮大な大自然、かわいい動物などを大画面で満喫、まるで鳥になったように空から見る地上の映像はとても心地良かったです。

・グループで、いろいろな科学の不思議や展示、体験コーナー、ショップなどを楽しみました。

・最後の集合も時間通り、高校生リーダーを中心に楽しくグループ活動ができました。

涙、涙・・・ホストファミリーとの最後のお別れ!

・一旦家に帰り、荷造りや夕食を済ませ、これまで何度も集合場所として親しんだアーリントン高校前に7時ごろ、集まりました。

・それぞれホストファミリーに対して、最大限の英語を使って、感謝の気持ちを伝えました。

・お別れのハグをしてもらうと、男女ともに涙する姿、号泣する姿が・・・

親切にしてもらったこと、しんどかったこと、くやしかったこと、楽しく笑いあったこと、通じ合ったこと・・・たくさんの思い出で胸がいっぱいだったのでしょ。とても感動的でした。

・手紙を書いて渡している生徒もいました。

・今年は例年以上に泣いてたり、別れを惜んでいる生徒が多いとのこと。本当にすばらしい貴重な経験と、多くの人たちとすてきなつながりを持つことができたからこそだと思います。彼らにとって一生の宝物になりました。

関わってくださったたくさんの方々から感謝申し上げ、最後のアーリントンだよりいたします。本当にありがとうございました。



思い出のアルバム(最終日編)



Ⅱ 来訪の部

1 訪日団員名簿

氏名	
Ben Oosting	ベン・オースティン
Michaela Morse	ミケーラ・モース
Emina Hamzic	エミナ・ハムジック
Sawyer Friedman	ソーヤー・フリードマン
Emma Petrie	エマ・ピートリー
Irina Mara	イリーナ・マーラ
Sara Tomilson	サラ・タモーサン
Helen Record	ヘレン・レコード
Elaina Maxwell	イレーナ・マックスウェル
Madeline Amidon	マデライン・アミードン
Reese Stephen	リース・ステファン
Lauren Murphy	ローレン・マーフィー
Maggie Crimmins	マギー・クリミンズ
Boston Mckinnon	ボストン・マッキンノン
Chris Martino	クリス・マーティーノ
Lianna Besette	リアーナ・ベッセットウ
Roxanne Martino	ロクサーヌ・マーティーノ

2 訪日日程

月 日（曜日）	時刻	行程
7月6日（水）	19:45 21:00	伊丹空港 到着 長岡京市役所到着後、各ホストファミリー宅へ
7月7日（木）	9:00 9:30 10:20 14:00 16:30	市長表敬訪問 市役所内見学 楊谷寺写仏体験、寺内見学 バンビオで料理体験 ホストファミリー宅へ移動
7月8日（金）	8:30 17:00	長岡中学校で交流プログラムに参加 ホストファミリー宅へ移動
7月9日（土）		ホストファミリーデー
7月10日（日）		ホストファミリーデー
7月11日（月）	8:30 17:00	西乙訓高校で交流プログラムに参加 ホストファミリー宅へ移動
7月12日（火）	9:30 14:10 17:30	伏見稲荷大社見学 東大寺、奈良公園散策 ホストファミリー宅へ移動
7月13日（水）	8:30 15:00 17:00	神足小学校で交流プログラムに参加 乙訓高校で水球体験 ホストファミリー宅へ移動
7月14日（木）	10:00 12:00 16:00 18:00	清水寺見学 錦市場散策 ホストファミリー宅へ移動 フェアウェルパーティーに参加
7月15日（金）	10:00 14:00 17:00	東映太秦映画村散策 嵐山モンキーパーク見学 ホストファミリー宅へ移動
7月16日（土）		ホストファミリーデー
7月17日（日）	11:15 11:30	長岡京市 発 伊丹空港 発

3 訪日団引率者挨拶

Speech by Mr. Chris Martino
クリス・マーティーノ訪日団団長挨拶

The students, Ms.Besette, Ms Martino and myself want to thank the leaders and students of your schools ,and the wonderful people of Nagaokakyo, especially our host families, for being so warm and welcoming.

アーリントンの生徒及び、引率のベセッテ、マティーノ、そして私は長岡京の代表である方々、学校の先生や生徒たち、素晴らしい市民のみなさま、そして特にホストファミリーの暖かい歓迎に対し心よりお礼を申し上げます。

We saw beautiful sites and had so much fun participated in school activities.
But the thing we remember most is the people. We have become part of your family.

私たちは美しい景色に出会い、学校活動に参加し楽しい時間を過ごしてきました。けれども一番に思い出すのは人々です。私たちはあなたの家族の一員となったのです。

I know many of us had a hard time traveling so far from home, but we all are going to have just as hard a time leaving. The sister city program between Arlington and Nagaokakyo allows the students this experience.

The sharing of our cultures bring us closer together.

私達の多くは遠く家を離れ旅をするのが辛い時もありました。
けれど今度は同じくらいここを離れるのが辛くなることでしょう。
アーリントンと長岡京の姉妹都市交流は生徒たちにこのような経験をさせてくれます。文化を共有し私たちはより近くなるのです。

Life has it's up and downs. Being here is definitely a Big Up!!

人生は山あり谷ありです。
今わたしのいるこの場所は大きな山の頂であることは間違いありません。

I am fortunate to say this is my second visit to Nagaokayo. The beautiful sites and the wonderful people became part of me and I am so happy to see them again this visit.

幸運なことに長岡京へは2度目の訪問となります。
美しい景色、すばらしい人々は今や私の一部分となりました。今回再会できることを大変嬉しく思っています。

The sister city program between Arlington and Nagaokakyo has created many wonderful lasting relationships between our countries. I am proud to be a part of the program and I hope it continues for years to come.

アーリントンと長岡京の姉妹交流は 私たち両国の間で素晴らしい長く続く関係を数多くつくりあげてきました。私はこのプログラムの一員としてかかわれることを誇りに思い、このプログラムがこの先何年も続くことを願っています。

If you, Mr. Mayor, or anyone else comes to Boston and needs help, let me know. I will do my best to help.

Thank you for having us.

市長をはじめ、みなさまがボストンにお越しになられ、何か手助けが必要であればぜひ私にお知らせください。全力でお手伝いさせていただきます。
お招きいただきありがとうございます。

4 訪日団生徒挨拶

Speech by Ms. Sara Tomilson
生徒代表サラ・タモーサンの挨拶

Konnichiwa. Watashi wa Sarah desu. I am a student from Arlington high school in Massachusetts and I am so excited to be here today.

こんにちは 私はサラです。マサチューセッツ州アーリントン高校の生徒です。
今日はとてもワクワクしています。

Coming to Japan is an amazing experience. Japan is a beautiful country with a very different and interesting culture from our own.

日本に来ることは素晴らしい経験です。
日本は私たちの文化とは異なる興味深い文化を持つ美しい国です。

But being able to come and stay with host families is an experience of a lifetime. It is an opportunity that not many people are given, so we are so grateful to be here.

ここへ来て、ホストファミリーと過ごせるのはまたとない経験です。それほど多くの人に与えられる機会ではありません。ですから私達はここに来られたことをとても感謝しています。

We can't wait to try all kinds of new foods and activities and to experience Japanese culture. That is why this sister city relationship is so important, because we are learning and expanding our horizons in an amazing and very fun way.

食べたことのない食べ物や初めてのアクティビティに挑戦し、日本文化を経験することがとても楽しみです。素晴らしく、とても面白い方法で私たちは学び、視野を広げ続けています。だからこの姉妹都市交流はとても大切なのです。

So thank you so much for continuing this relationship for so long and letting us come and stay with you, we are so happy to be here.

Domo arigatougozaimasu

この交流を長く続けてくださり、一緒に過ごさせて頂いていることに感謝いたします。
ここに来て本当に嬉しいです。どうもありがとうございます。



アーリントン訪日団 友好紀行

長岡京市教育委員会 学校教育課 第1号

★★主なプログラム 平成28年7月7日～11日★★

大阪空港到着、表敬訪問、楊谷寺、長岡中学校、西乙訓高校

Arrival (Osaka Airport), Courtesy Call, Youkokuji Temple,
Nagaoka Junior High School, Nishiotokuni High School



市長を表敬訪問しました。

As a welcoming gift the Mayor gave students
Hand fans to help with the summer heat..



楊谷寺にて記念撮影！

The group visited Yokokuji Temple and went
on a scavenger hunt.



長中にて英語の授業。先生代わりです。

Students visited a 3rd grade English class and
Enjoyed conversation with Nagachu students.



家庭科の授業ではおにぎり作りにチャレンジ！

While visiting Nagachu, students rolled up their
sleeves and made Onigiri.



西乙訓高校では剣道を教えてもらいました。

Students learned about the traditional sports of
Kendo at Nishiotokuni.



夜はカラオケで盛り上がりました。

Students sang the night away at Karaoke!



アーリントン訪日団 友好紀行

長岡京市教育委員会 学校教育課 第2号

★★主なプログラム 平成28年7月12日～15日★★

奈良観光、神足小、乙訓高校、清水寺、錦市場、さよならパーティー、太秦映画村、モンキーパーク
Nara, Kotari E.S., Otokuni H.S., Kiyomizu Temple, Nishiki Market, Farewell Party,
Samurai movie Park, Arashiyama Monkey Park



初めて見るたくさんの鹿に大興奮でした。
Dear Nara deer, You were hungry.



神足小でヘレンの誕生日を祝ってもらいました。
Celebrated Helen's 17th B.D. at Kotari E.S.



清水寺で音羽の滝では恋の成就を祈念？
Kiyomizu temple gave students a cool way
to cool down.



浴衣姿でさよならパーティーに参加しました。
Farewell party was a great yukata fashion
show.



太秦映画村でちゃんばら体験をしました！
Kawaii?Kowai?Samurai movie park was great
fun.



モンキーパークで猿の勢いにびっくり！
Monkey park was fun to monkey around in!